「堂山へのハイキング。私の助けはどこから」

　早くも2月を迎えました。一番寒い時期でありつつ、暖かい日と寒い日の寒暖の差が大きいように思います。引き続き、皆さんのご健康が支えられ、弱さの中にある方々には平安と回復が与えられますようにお祈りいたします。

　教会で毎月1回行われている子ども集会は、教会の建物の中で行うことがほとんどですが、先月の子ども集会は野外活動で、近くの堂山という山に子どもたちや保護者の方々と一緒にハイキングに行きました。個人的にはこれまで何度も登ったことのある山ですが、何度登っても、良いものです。多くの人たちが、健康のために、気分転換のため、あるいは本格的に登山やハイキングをします。スポーツ専門店や靴屋さんに行きますと、登山やハイキングに関する靴、そのほか必要なものが売られています。そして日本では、昔から「山」というものを、神聖なものと考える「山岳信仰」というものがありますし、多くの山の頂上には「ほこら」があります。今回は堂山の展望台まで行きましたが、実際に頂上に行きますとそれがあります。堂山の頂上は木々が視界をさえぎっていて、下の景色が見えません。展望台からですと、高松高速自動車道をはじめとして、はるかかなたに瀬戸内海が見え、香川県の山に特徴的な、いわゆる「お茶碗をひっくり返したような山」、「おむすび山」がいくつも見えます。先日、県外から来られた方が、そのような香川の山を見て「かわいい」とおっしゃっていました。ちなみに生まれ故郷の群馬県で私はかつて赤城山1828mの麓の大胡町（おおごまち）に住んでいました。四国で一番高い山は石鎚山で1982mですから、石鎚山よりも少し低い山なります。

　聖書には、山々に関してのエピソードが出てきます。一つ一つを詳しく述べませんが、旧約聖書の詩篇121篇の1－2節には次のようなことばがあります。この聖書のことばはしばらく前に、五色台のバイブルキャンプでも参加した児童たちが暗唱したことばでもあります。

121：1　私は山に向かって目を上げる。私の助けは　どこから来るのか。

121：2　私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。

　この詩篇の作者は、エルサレムの都へ向かう途上、都を囲んでいる山々を見上げながら、自分の人生を想い、自分の人生の守りや安全、本当の助けはどこから来るのだろうか？という問いを自問自答したと考えられます。それに対して、**「私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」**とはっきり断言しました。自分の助けが主なる神様から来ていることを心から告白しています。ここで一つ注目したいことは、神様は「天地を造られたお方」つまり「天地万物を造ってくださった創造主」であるということです。山々を初めとして私たちが見る美しい大自然は神様によって造られています。人間も神様によって造られました。しかし残念ながら、人間は神様に背いて、自分の勝手な道を歩み始めてしまったのです。真の神様を神様としないこと、まさにそれが罪です。神様から離れ、神様の呼びかけと愛に応答することのできない存在となってしまったのが人間です。しかし神の御子イエス・キリストの十字架の死と復活によって、神様は人間にご自身の愛を示され、救いの道を備えてくださいました。

　この詩篇の作者は、本当の助けは、山々や大自然からでもなく、他の人たちからでもなく、それらのすべてを創造してくださった方、天地を造られた主なる神様から来ると、告白しています。実はどのように助けてくださるのかということが、この後の121篇3節以降に書かれています。そして詩篇121篇8節では**「主はあなたを　行くにも帰るにも　今よりとこでしえまでも守られる。」**と告白しました。都上りに際して、行くにも帰るにも、主なる神様の守りがあるとの告白です。私たちの人生の助けはどこから来るでしょうか。また私たちは日々、誰によって守られているでしょうか。神様はすべての創造主であられ、実は私たちにも身近に関わってくださるお方です。そのお方に守られ、支えられて安らぐことの幸いを知ることができますように、お祈りいたします。

国分寺キリスト教会　牧師　原　一　　2024年2月